

令和4年度 農業農村整備事業事後評価第三者委員会 議事概要

- 1 日時：令和4年12月15日（木） 10：00～12：00
- 2 場所：沖縄県庁9階第4会議室
- 3 第三者委員：大城一也（沖縄振興開発金融公庫農林漁業融資班課長）
高橋そよ（琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授）
中村真也（琉球大学農学部地域農業工学科教授）

（五十音順）

4 概要

令和4年度より、農業農村整備事業事後評価を県主体で行っており、これまでに幹事会、審査委員会、第三者委員との現地視察を行っている。

第三者委員会では委員からの意見を聞き、その意見等を尊重し、地区別結果書に反映することを目的としている。

5 議事

【委員】今年度の事後評価候補地区一覧があるが、それぞれの候補地区の概要の説明ならびに、なぜ、今回の事後評価で当該事業を取り上げるのか説明いただきたい。

【事務局】来年度以降は、評価候補地概要の説明および、地区決定理由の説明を設ける方向で進めさせていただきます。

【委員】資料として定量的な内容に偏りがちになると思うが、現地視察での農家の意見等の定性的な要素も資料に反映してもよいのでは。※農家の意見を羅列する等

【事務局】来年度は、農家聞き取りの情報を反映し、資料作成いたします。

【委員】事業前と事業後と比較すると、サトウキビの作付け面積が減っているが、何かに転換があったのか。

【事務局】畜産のニーズが高まったことにより牧草が増えたり、高収益作物への転換等が行われていることで、サトウキビの作付け面積が減っております。

【委員】事業前と事業後とで土地利用状況図等があれば、事業前後でどのように変わったか解りやすいが。

【事務局】来年度資料作成の参考とさせていただきます。

【委員】計画変更時（H22）と評価時点（R4）とで効果の比較を行っていますが、当初と計画変更時での効果の比較は可能か。

【事務局】事業完了しておらず、効果発現していないので、比較はできません。

【委員】いつ頃から水の使用が始まり、効果発現し始めたか確認できる資料があれば良いのでは。

【事務局】今年度は確認しておりませんので、来年度資料作成の参考とさせていただきます。

【委員】他の事業と連携して、総合的な評価を年表式にまとめられれば、他事業と連携してどのように地区が良くなっているか解釈できる資料が出来れば良いのでは。

【事務局】事後評価の業務で出来るかわかりませんが、来年度資料作成の参考とさせていただきます。

【委員】牛の飼育について、伊江村としてはどのように変動しているか。

【事務局】牛の頭数ですが、平成17年度には4000頭で、令和2年度4500頭となり10%の増となっております。

【委員】伊江村はかんがい排水事業が主でしょうか。

【事務局】伊江村につきましては、かんがい排水事業がメインとなっております。

【委員】事業前から元々単収がある作物に関しては、かん水時間で割っているグラフ等も設け、資料の見せ方を工夫しても良いのでは。

【事務局】来年度は、時間当たりの生産量等のグラフを資料に加えられるよう努めます。

【委員】質が良くなっているのをアピールするには、時間と質(金額)を比較してのグラフをつくっても良いのでは。※現地視察の際、菊農家からは、かん水作業の時間に余裕が生まれたことで他に使える時間が増えた等の意見があったため。

【事務局】来年度は、時間と質(金額)を比較したグラフを資料に加えられるよう努めます。

【委員】事業前、事業後で同じ作物に対し、どれぐらい水を使うようになったかを比較できるグラフが作れば良いのでは。

【事務局】来年度資料作成の参考とさせていただきます。

【委員】農地集約について、事業等はあるのか。

【事務局】中間管理機構と連携して進めております。耕作条件改善事業を改修時期と併せて行っております。

【委員】伊江島にはため池が多々あるが、伝統的にどのように地域住民とため池とがつながっていたかを整理するとよいのでは。

地区別結果書6ページ「5 事業実施による環境変化」によると、本事業の導入により、ため池を利用した農家にも好影響があったことが示されている。このような事業対

象地外への波及効果についても効果検証を含めてはどうでしょうか。

【事務局】 来年度資料作成の参考とさせていただきます。